

新入架史料

新入架原本・古写本類

○賀茂中村郷年中納遣方帳

(〇一五三―一六一)

賀茂別雷神社領に関する史料。表紙には「寛永十九年十月朔日之図 中村郷年中納遣方帳 太宮郷・山奉行ノ帳モ奥ニアリ 中大路内匠允清善」と打付書で記す。袋綴装で二二丁の冊子に、三つの帳簿が合綴される。まず冒頭六丁分は、賀茂別雷神社領山城国綴喜郡中村郷の年中の様々な納入物の書きあげである。続く三丁は「大宮郷之帳」とあり、慶長二年(一五九七)～明暦三年(一六五七)の規定が記されている。末尾にやや小ぶりの紙二丁に「氏人兼役山奉行年中事」が記されている。また表紙左上に朱文角丸長方印「温故斎藏書」が捺されている。これは賀茂別雷神社の社司賀茂(中大路・岡本)清茂(一六七九～一七五三)の蔵書印である。清茂は表紙に見える中大路清善(一六〇〇～一六八二)の孫にあたることから、本史料は中大路(岡本)家に伝わったものと推測される。一九七一年度購入。

一冊(袋綴装、一二二丁) 二六・一×二〇・四cm

(遠藤珠紀)

○御産部類記 待賢門院 天治元年

(〇一五七―九)

本史料は、天治元年(一一二四)五月二十八日に誕生した通仁親王(父は鳥羽上皇、母は中宮藤原璋子)の御産に関する諸家の日記を抄出した部類記である。

「藤波家藏書」印があり、藤波家旧蔵であったことが判明する。薄茶の刷毛目文様の表紙は、藤波家の所蔵当時のものと考えられる。

天治元年の『御産部類記』には複数の写本が伝わるが、いずれも宮内庁書陵部所蔵伏見宮本『御産部類記』(伏一六一八、鎌倉時代写、以下古写本とする)の巻九から派生したものである。現在確認できる写本としては、花園左府記(源有仁)・中右記(藤原宗忠)・戸記(藤原忠教)・永昌記(藤原為

隆)・礼記(源雅兼)・朝隆卿記(藤原朝隆)の六種類の日記の抄出からなる系統と、花園左府記・中右記・戸記・永昌記の四種類の日記の抄出からなる系統とがあり、本史料は前者に属する。扉には野宮定基による目録があり、本史料が野宮定基本を直接の祖本とすることが知られる。字体、字配り、虫損跡ともに古写本の様態をよく捉えており、近世写本ながら善本といえよう。本史料では、古写本に元々存在する傍注は墨で、それ以外の注記は朱で書き込みがなされている。朱の注記内容は他の近世写本と共通する部分も多い。なお、現在の古写本には一紙分の欠落があり、当該箇所を圖書寮叢刊『御産部類記』では宮内庁書陵部所蔵柳原本(柳一五四三)により補っている。本史料にも該当箇所は存在し、書写態度を勘案すると、失われた古写本の一紙の姿を探る貴重な手掛かりとなるであろう。二〇二一年度購入。

また本史料と近い関係にある写本として、東京大学総合図書館所蔵の『御産部類』(GZ188)がある。本奥書および奥書によれば、総合図書館本は、野宮定基本を宝永年中(七年(一七一〇)あるいは八年)に久我惟通が書写し、それを宝暦二年(一七五二)に中院通枝が写したものである。冒頭には同じく野宮定基が加えた目録がある。

一冊(六七丁) 二九・二×二一・〇cm

(小塩慶)

○蘭齋画譜

後編

(〇三八〇―七七)

本史料は、森蘭齋(一七四〇―一八〇二)が著した南蘋派絵画の教科書で、享和元年(一八〇二)に刊行された版本である。森蘭齋の著作としては、天明二年(一七八二)刊行の『蘭齋画譜』八巻と本史料の『蘭齋画譜後編』四巻が著名である。本史料の『蘭齋画譜 後編』の内容は、一巻が「菊部」、二巻が「梅」部、三巻が「木・石・草・水部」、四巻が「鳥部」からなっている。

南蘋派は、中国の沈南蘋（二六八二—一七六〇）が享保十六年（一七三二）十二月三日に長崎に到着し、同地に二年弱滞在した時に写実的な中国院体の画風を日本に伝えたことにより始まる。沈南蘋は、長崎滞在中に唐通事であった熊斐（神代彦之進）（一七二二—一七七二）に写実的な院体画風を教えた。南蘋の唯一の弟子熊斐に弟子入りしたのが蘭齋であった。蘭齋は、狩野良信の門人であった五十嵐俊明のもとで画法を学んでいたが、師俊明のすすめにより、長崎に下って熊斐に師事したのである。

蘭齋は沈南蘋—熊斐という系譜の正統な継承者であることを自負し、南蘋・熊斐の要諦が蘭竹の画法にあったことを伝えるため、画譜を刊行した可能性を指摘する研究もある。また、南蘋派の教授法の一つは、画譜を教科書として参照することであり、『蘭齋画譜』、『蘭齋画譜 後編』も同様の役割を持った。このように画譜は教科書として刊行されたものだが、江戸時代の印刷技術により一般的な読み物としても広く流布した。画譜の普及により、南蘋画風は一気に江戸中期以降の日本画壇に広がり、日本全国に知られるようになったのである。後に南蘋派の画風は、円山応挙や与謝蕪村などにも影響を与えることになった。

本所所蔵本の特徴としては、蔵書印が捺されていることである。それらは、「田藩文庫」の黒印、「田安府芸台印」の朱印、「猷英楼図書記」の朱印三点が確認でき、いずれもの印も田藩文庫の蔵書印として知られている。田藩文庫は江戸時代の田安德川家の文庫のことであり、現在、田安德川家旧蔵古典籍（田藩文庫）は、国文学研究資料館寄託一〇〇七点、慶應義塾大学寄託二四点が知られている。他の機関にも国立公文書館、国立国会図書館、名古屋市蓬左文庫に所蔵されている。本所所蔵の『蘭齋画譜 後編』四巻も、他の機関で保管されている書物と同様に田安德川家が旧蔵していた版本である。本史料は二〇一五年に古書店より購入。

四冊 二八・〇×一八・七cm

〔参考文献〕 鶴田武良著『日本の美術 宋紫石と南蘋派』三二六（至文堂、一九九三年七月）／趙忠華・郭玲玲・福田隆眞著「江戸中期における画派の絵画教育についての一考察—南蘋派を例として—」（山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要）第四三号、二〇一七年三

月）／人間文化研究機構国文学研究資料館編『田藩文庫目録と研究—田安德川家伝来古典籍—』（日本書誌学大系九四 青裳堂書店、二〇〇六年三月）

（生駒哲郎）

○東征大総督御沙汰書

（〇四七一—四〇）

慶応四年（一八六八）五月十四日、東征大総督有栖川宮熾仁親王が、上野山内などに屯集する彰義隊その他脱走士の追討を、従軍各藩の兵隊に命じた御沙汰書。同内容の文書は、『江城日誌』第四、『復古記』第十一冊、「大日本維新史料稿本」にも収録されている。なお、本文書は、宮武外骨旧蔵と伝わり、元は額装されていたが、修理に際して状物の形態に戻した。二〇一二年、吉野孝雄氏より寄贈。

一通（継紙） 一九・五×一二・三cm

（箱石大）

○柳沢・横手文書

（〇四七一—四三）

甲斐の国衆柳沢氏と横手氏の文書。柳沢氏あては、天正十年（一五八二）の徳川家康朱印状二通と足利義昭からの御内書一通。ただし義昭御内書は毛利氏の被官となった柳沢氏に充てられたもので、後世に入手したと考えられる。横手氏あては武田晴信判物と家康朱印状の二通。残りの一通武田勝頼から曾祢河内守に充てられた文書は偽文書。二〇二一年度登録。

六通（三一・二×四五・三cm、二九・五×四〇・九cm、

二一・八×五〇・八cm、三一・三×四五・一cm、

三一・二×四六・三cm、三一・三×四六・九cm）

（村井祐樹）

○蜷川親世書状

（〇八三五—一三）

室町幕府政所代蜷川親世（道哉）が出羽最上氏の臣氏家左衛門尉に充てた書状。永祿八年（一五六五）五月十九日、三好三人衆により時の將軍足利義輝が討たれた。義輝に仕えていた親当も没落せざるを得ず、三年前に政所伊

勢氏が敗死した際に計画していた出羽への下向を実行することとなった。京都扶持衆石川氏が親当に同道して下向したことなどは、本書状により初めて明らかになった事実である。二〇一九年度購入。

一幅 総高九七・八×幅六三・四cm
(村井祐樹)

○細川藤孝副状

(〇八三五―一四)

足利義昭の側近細川藤孝が、永祿九年(一五六六)二月に上野の国衆横瀬雅楽頭(由良成繁)に充てて記したものの。前年の五月に時の將軍足利義輝が弑されると、実弟一乗院覚慶(還俗して足利義秋→義昭)は奈良を脱出し、各地を流浪しながら、三好三人衆に抗するため、各地の大名・国衆に協力を呼びかける。本書状もその一環として出されたもの。「被成御内書」とあることから副状であったことがわかる。二〇二二年度登録。

一幅 総高一一一・七×幅六六・一cm
(村井祐樹)

○伊達政宗朱印状

(〇八三五―一五)

伊達政宗が、陸奥会津の白金左衛門尉に会津郡内の「蠟之役」を安堵した朱印状である。白金氏については不明だが、蠟の採取を生業としていた一族であろうか。天正十八年(二五九〇)四月廿四日付けで、秀吉に謁するため小田原へ出発する(五月九日)直前に出されたもの。朱印の印文は「龍納」で政宗の使用した印章の最初の形式である。二〇二二年度登録。

一幅 総高一二三・二×幅六〇・八cm
(村井祐樹)

○細川忠利書状

(〇八三五―一六)

肥後熊本藩主細川忠利の書状。宛所は豊後日出藩主木下延俊。延俊の室は細川忠興の妹加賀である。本文書は寛永十五年(一六三八)二月二十八日の肥前原城落城後、三月二日に熊本に帰着した忠利が延俊からの書状に応えたもの。上使松平信綱・戸田氏鏡が島原・天草・長崎・平戸・名護屋へ巡見す

るとの情報と、合戦で負傷した府内目付牧野成純が肥後を経て豊後府内へ戻る予定である旨を伝える。細川忠利が寛永九年(一六三二)以降、諸方に宛てた文書の多くは、「公儀御書案文」等と題された史料に留められており、『大日本近世史料 細川家史料』一六―二七巻に収録している。これには同日付の書状案が三七件みられるが、本文書は留められていないものである。二〇二〇年度購入。

一幅 総高一二七・〇×幅七一・三cm
(林晃弘)

新入架写本

○記録 歳譜

(四一四〇・六一―一二三三)

複数の所司代下役が作成したと推定される便覧。全四冊。それぞれ墨付四〇丁・二九丁・一八丁・五一丁。内容は主に朝廷に関する記録であり、安政度内裏造営関連の人名録、安政二年の新内裏遷幸の行列書、安政五年の幕府人事記録、ペリー来航など弘化→安政期に発生した諸事件の記事からなる。二〇一四年度購入。

四冊(二三・三×一六・八cm、二三・三×一六・八cm、

二三・三×一七・〇cm、二三・五×一六・〇cm)
(荒木裕行)

○井伊騒動風説書

(四一四〇・六一―一二四一一)

○対州騒動略記

(四一四〇・六一―一二四一一)

幕末期の風説書を留めた写本二冊を合綴したもの。共に駿河国出身の医者で大坂の合水堂に学んだ中村順助の家に伝わったものが、明治中期に駿河の国学者であった三浦良平に伝わったものとみられる。

「井伊騒動風説書」は、桜田門外の変に係る風説書四件を留めたもので全九丁。末尾の奥書に「安政七申(一八六〇年)三月三十日 於周防国吉敷郡黒川村(現山口県山口市黒川)吉田先生之塾写也 中村順助」とあり、収録する四点の風説書の内二点が長州藩内のものである。

「対州騒動略記」は、いわゆるボサドニック号事件に係る風説書三点を留めたもので全七丁。風説書三点の内一点の奥書に「万延二年（一八六一）辛酉六月 於浪華花岡外塾楽天樓写之」とあって、大坂に回ってきた風説書が合水堂でも広まっていた様子が窺える。全一六丁。二〇一五年度購入。

一冊（合綴）（二三・九×一六・四cm）

（維新第二室）

○松平陸奥守殿上書写

（四一四〇・六一二五一一）

○水戸様一件并御役替

（四一四〇・六一二五一一）

○三徳蠟能書

（四一四〇・六一二五一一）

幕末期の写本三点を合綴したものの。駿河国出身の医者で大坂の合水堂に学んだ中村順助の家に伝わったものが、明治中期に駿河の国学者であった三浦良平に伝わったものとみられる。

「松平陸奥守殿上書写」は安政四年（一八五七）九月付の陸奥国仙台城主伊達慶邦が、米国総領事ハリスの江戸出府・江戸城登城願いに関して幕府に提出した意見書の写し。「水戸様一件并御役替」はいわゆる安政の大獄に関するもので、安政六年（一八五九）九月付で徳川斉昭・慶篤・慶喜が蟄居となった経緯や連座者への処分、人事交替に関する覚書。「三徳蠟能書」は明治初年の風刺文を写したものを。全二一丁。二〇一五年度購入。

一冊（合綴）（二二・三×一四・二cm）

（維新第二室）

○田制志料

（四一五三―一八四）

本史料は田制に関する史料を抜粋して謄写したもので、四分冊からなり「修史局」の原稿用紙が使用されていることから修史局時代に作成されたものと思われる。

内容は、第一冊目は貞永元年（一二三三）から永和元年（一三七五）までの史料、第二冊目は明徳二年（一二三九）から天文二十一年（一五五二）ま

での史料を採録、第三冊目は永禄三年（一五六〇）から天正二十年（一五九三）までの史料を採録、第四冊目は年未詳の史料および編纂物の田制に関する記事を採録しており、編年順の構成となっている。

田制に関する史料として、本所には修史館によつて明治十年（一八七七）頃作成された『食貨志料』（請求記号四一五三―一二）一八冊のうち第一から四冊が「田制」に関する史料集としてまとめられている。『田制志料』は作成年代未詳だが修史館より前の「修史局」の原稿用紙が用いられているので、『食貨志料』より前に作成されたことがわかるが、未製本のまま本所に保管されていた。未製本のままであった理由はわからないが、特徴的なのは、『田制志料』に記載された史料と『食貨志料』に記載された史料が重ならないという点である。

四冊（二五・三×一八・八cm）

（生駒哲郎）

○安藤家江戸留守居手留

（四二四〇―一一）

陸奥国平藩の江戸留守居が作成したものを江戸家老が書写した手留。嘉永七年（一八五四）成立と安政五年（一八五八）成立の二冊からなる。それぞれ墨付三五六丁・一五〇丁。内容は幕府からの通達、老中以下幕府役人との交渉などの記録からなる。収載される内容は天和三年からのものが含まれ、一九種類に分類される。藩主安藤信正の奏者番・寺社奉行就任を受けて作成されたかと推定される。二〇一八年度購入。

横帳二冊（二三・〇×一九・〇cm、一一・五×一九・五cm）

（荒木裕行）

○雑記

（四二四〇―一二）

文化十四年（一八一七）頃に老中松平信明の家中で作成された帳面を基に作成されたと推定される。墨付七一丁。内容は信明が老中の職務において授受した書状類の覚であり、文化四年から十二年、十六種類三七〇件の書状が収録される。二〇一八年度購入。

横小本一冊（二三・三×一九・〇cm）

(荒木裕行)

○奏毘集

(四二四〇—一三)

明和年間の幕府奏者番の勤務に関わる記録をまとめたもの。墨付六一丁。「御成之節 還御 御目見所之図」など二三項目に分類される。作成者・作成時期は不明。二〇一八年度購入。

横小本一冊(二三・五×一九・七cm)

(荒木裕行)

新入架写真帳

○仏教 弥谷寺所蔵聖教類

○寺院 二月堂修二会記録文書

○日本の詩歌 続亜槐集 梁塵秘抄口伝集卷第十残卷 梁塵秘抄卷第一并梁塵秘抄口伝集卷第一残卷

○日本の小説・物語・随筆・日記 夜寝覚拔書

○日本漢詩文 本朝文粹

○歴史総記 「日本中世史」四卷之日記 「日本近世史」久須美家史料 信長

公記 信長記(東京国立博物館所蔵) 信長記(個人蔵本) 秀頼記 信

長記(個人蔵十冊本) 大田和泉守日記 信長記(丹波市教育委員会所蔵)

信長記(津山郷土博物館所蔵) 信長記(太田直憲氏所蔵) 猪熊

物語 豊国大明神臨時御祭礼記録

○経済 後藤家史料

○有職故実・儀式典例 天養度革命諸道勘文(三条西本)・同紙背文書 正

中度革命諸道勘文(三条西本)・同紙背文書 弘長度革命諸道勘文案等

(三条西本) 昌泰革命事(九条本) 革命仗議記(九条本) 革命定例

(九条本) 革曆類(九条本) 辛酉改元関係記(九条本) 革命革命令文書

目録並辛酉甲子年々表題紙(九条本) 革命定記(九条本) (紙背明応六

年具注曆) 甲子革命勘文並仗議定文(九条本) (紙背和歌懷紙) 甲子

勘例(文安) (壬生本) (紙背明応八年仮名曆) 八幡遷宮次第並御社参

之儀(中院本) 八幡御剣袋更替使并一社奉幣記(万里小路本) 広義門

院御逆修人々装束色之事 天祚礼祀職掌録 朔旦冬至記(三条西本)

義持公内大臣拝賀并実仁親王御元服記 称光院大嘗会御記 院拍子合清

暑堂神宴記(応永二十二年)

○天文学 永正十五年具注曆紙背(除目申文案・明応六年大間書) 宿曜御

運録

○日本史料 「京都府」仁和寺史料御経蔵 「大分県」日田広瀬先賢文庫史料

○古文書 「中世の文書」大嘗会雑々 法勝寺領美濃国船木荘訴訟文書 六

角供御人二関スル文書 「紙背文書」実隆公記裏書(三条西本) 「古文

書各説」洞院大納言公敏書状(谷森本) 正親町三条実継書状(日野

本) 一条禅閣兼良公消息(御所本) 後花園天皇諭旨(桂宮本) 後土

御門院御文類(伏見宮本) 一条関白冬良消息(桂宮本) 女房奉書案

(桂宮本) 日野晴光書状(日野本) 後陽成天皇宸翰御消息(谷森本)

後陽成天皇宸翰御消息 関白宣下文書(壬生本) 神祇伯及權大少副宣

旨(壬生本) 曆博士及陰陽頭宣下文書(壬生本) 室町殿幕下御辞退次

第清書之事二付書状(壬生本) 卜部兼俱父祖贈官申状(桂宮本) 遣遥

院任槐所望之文(桂宮本) 三条西実枝改名款状(桂宮本) 洞院実熙消

息(桂宮本) 三条西実隆消息 堯空消息(桂宮本) 遣遥院書状(桂宮

本) 後高倉院序下文 越中国雄神荘下司藤原光忠起請文 蜻菴消息

(桂宮本) 関東下知状附六波羅施行状 石清水八幡宮田中宗清願文

「宮城県」伊達家文書 「福島県」高田氏所蔵文書 広瀬典探訪書写文書

飯野家文書 「茨城県」長岡古宇田文書 護国院文書 塚原賢三氏所蔵

文書 戸村文書 「栃木県」大関文書 福地文書 島田文書 平野文書

天性寺文書 「群馬県」中澤力司氏所蔵文書 補陀寺文書 小坂橋文書

長伝寺文書 小林文書 成就院文書 崇徳寺文書 長源寺文書 真下氏

所蔵文書 「千葉県」本田文書 館山市立博物館所蔵文書 石井文書

大野文書 橘木社文書 国立歴史民俗博物館所蔵文書 「神奈川県」東

慶寺文書 「新潟県」雲洞庵文書 本成寺文書 長岡市立中央図書館所

蔵文書 渡辺氏所蔵文書 中条文書 居多神社文書 植木氏所蔵文書

上越市教育委員会所蔵文書 上越市立高田図書館所蔵文書 上越市立総

合博物館所蔵文書 上越市文書館準備係所蔵文書 中島氏所蔵文書 新

- 潟県立歴史博物館所蔵文書 反町氏所蔵文書 山吉文書 淨興寺文書
 「富山県」大田家文書 「石川県」石川県立博物館所蔵文書 石川県立博
 物館寄託文書 林西寺文書 「福井県」宇波西神社文書 「岐阜県」高木
 家文書 「三重県」莊司文書 「滋賀県」長浜城歴史博物館所蔵文書 三
 田村文書 称名寺文書 垣見文書 大沢神社文書 「京都府」東寺百合
 文書 (丹波大谷村) 佐々木文書 丹後国分寺建武再興縁起 賀茂別雷
 神社文書 「大阪府」三浦氏旧蔵文書 楠葉今中文書 片岡文書 太田
 家文書 「兵庫県」秋山文書 牧田文書 大岡寺文書 秦文書 赤穂大
 石神社所蔵文書 丹波市教育委員会所蔵史料 広峯神社古文書 「鳥取
 県」鳥取市歴史博物館所蔵文書 鳥取県立博物館所蔵文書 伊福部文書
 北尾氏所蔵文書 「島根県」億岐家文書 富文書 (島根県立古代出雲歴
 史博物館所蔵) 富文書 (島根県立図書館所蔵) 赤穴八幡宮文書 牧文
 書 中村氏所蔵文書 石見銀山資料館所蔵文書 竹矢文書 甘南備寺文
 書 村差出明細書上帳控 三澤文書 「岡山県」仁木文書 永祥寺文書
 安倍文書 佐野文書 「山口県」長府博物館所蔵文書 能美文書 内藤
 文書 伊藤文書 金子文書 岩屋寺文書 宇多文書 熊毛神社文書 粟
 屋文書 杉谷文書 西文書 細川文書 「佐賀県」東妙寺文書 親種寺
 文書
- 日記 園太曆 (三条西本) 尊鎮親王御記 後慈眼院殿御記別記 後慈眼
 院殿御記 後慈眼院殿雜筆断簡 後法音院日記
- 書道 林家旧蔵古筆手鑑 久迹宮家旧蔵手鑑 古今文字讚
- スポーツ・体育 難波家蹴鞠関係資料